鳥取大学

産学・地域連携推進たより

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業報告

2016
冬号

研究推進に関する事業報告

1. はりま産学交流会　10 月創造例会【10 月 21 日（金）：姫路商工会議所】

はりま産学交流会の「10 月創造例会」が約 80 名の参加のもと開催されました。同交流会は、はりま地区の企業と関西地区の大学の産学交流の場となるものです。10 月度例会では、鳥取大学から農学部生物資源環境学科上野琴巳講師より「植物ホルモン関連物質の農業への応用」、農学部共同獣医学科東和生助教より「キチンナノファイバーの食品、化粧品、医療分野への応用」の 2 テーマの発表を行いました。上野講師からは、植物ホルモンによる生合成阻害、代謝酵素阻害等による収量向上等について、また東助教からは、キチンナノファイバーの研究、応用の現状、及び今後の可能性について講演がありました。今回は農学分野の研究についての発表でしたが、両発表とも他の大学にはない研究であり、活発な議論がされました。更に交流会でも多くの方々との交流が行われました。

2. 東京ビジネス交流会【10月28日（金）：キャンパスイノベーションセンター東京】

東京ビジネス交流会の「まるごと鳥取大学」が、東京（田町）で開催されました。今回のビジネス交流会は、農学部、工学部、医学部と３学部の研究シーズの紹介をすることから、「まるごと鳥取大学」と銘打って開催し、同窓会に頼らず、今までの名刺データベースを使って集客や東京商工会議所の後援を受けるなど、昨年度とは異なる取組みにチャレンジして、関東地区の企業様にアプローチしました。

第１部では研究シーズ発表の時間を十分に取るようにし、研究シーズが広範囲にわたることからセッション方式を採用して、参加しやすさを追求しました。農学部 西原英治准教授と竹村圭弘講師による「自然環境・社会環境の変化に負けない栽培技術」のセッション、医学部附属病院 松本浩実理学療法士と工学研究科 櫛田大輔助教による「要介護リスクを低減する運動能力の衰えの早期診断」というセッション、及び工学研究科 原豊准教授と医学系研究科 板場則子助教のプレゼンで、計6件の研究シーズが発表され、全体で54名（学外参加者39名）の参加者が熱心に聴講されていました。

第２部は、情報交換会準備間での名刺交換会と情報交換会（会費制）を実施し、情報交換会には30名（学外参加者15名）が参加され、和やかな雰囲気で活気を感じられるビジネス交流会になりました。事後フォローを年明けも継続的にきめ細かく行って、マッチング成果を出せるようにしたいと思います。

3. 鳥取大学大阪ビジネス交流会【11 月 18 日（金）：ものづくりビジネスセンター大阪】

鳥取大学ビジネス交流会が大阪府東大阪市にある「ものづくりビジネスセンター大阪」にて開催されました。今年は、大阪商工労働部の共催のもと、ものづくり企業が集積している東大阪市での開催になりました。紹介するシーズの分野は、「ものづくりを支える要素技術、IoT/ICT 技術」で大学院工学研究科より機械系要素技術 3 件、IoT/ICT 技術 3 件の計 6 件研究シーズを紹介しました。大阪商工労働部から告知、近隣企業群の利便性もあり、学外から 50 名弱の参加者があり、技術シーズ発表会後の情報交換会においても活発な意見交換が行われました。

地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 共通教育科目「鳥取の海の幸を学ぶ」開講【10 月 4 日（火）～：鳥取大学鳥取キャンパスほか】

10 月から後期授業が始まり、「鳥取の海の幸を学ぶ」を開講しました。この科目は、鳥取県の重要な産業である水産業について体験しながら学ぶことにより、地域の特色ある自然や産業について教養を身につけるとともに、キャリア形成や社会での課題解決能力涵養に役立てることを目的として、平成 26 年度に開設されたものです。

鳥取県農林水産部水産振興局、水産試験場、栽培漁業センター、境港水産事務所や（地独）鳥取県産業技術センター食品開発研究所の協力により、水産業の現場訪問による視察・体験学習を組み入れています。（写真は鳥取県水産試験場でのベニズワイガニの解剖実習の様子）

2. キャリア科目「地域就業論」開講【10 月 6 日（木）～：鳥取大学共通教育棟 C51 講義室】

本学では平成 27 年度から、振興協力会会員企業を中心とした県内産業界の講師陣によるリレー講義「地域就業論」を開設しています。本講座は地元産業界への理解を促し、業界の魅力を学生に直接発信する取組で、学生の県内就職に繋げることを目的としています。経営者、本学 OB・OG など登壇いただいた講師陣からは、会社を取り巻く業界の紹介や、仕事のやりがい・面白さ、職に就くということの考え方など、非常に幅広い内容でご講演いただき、大学生活の 4 年間を充実させてほしいといったエールを送っていただきました。

3. サイエンスアカデミーin 米子「地域医療の最前線～地域のなかで地域とともに～」開講　【10 月 8 日（土）～：米子市立図書館多目的研修室ほか】

本学では、教員が行っている研究や地域住民の皆さんが日頃疑問に思っていることなど、自然科学、技術、環境、地域社会に関する今日的課題について紹介する「サイエンス・アカデミー」を毎月第 2・第 4 土曜日に開催しています。毎年 10 月・11 月は会場を米子市立図書館に移し、「サイエンス・アカデミー in Yonago」と題して開催しています。

今年度は「地域医療の最前線～地域のなかで地域とともに～」を主題に、医学部と国際乾燥地研究教育機構が「地域における医学生教育」、「医療現場での物事の決め方」、「病院でもよくならない病」、「地域とのヌカカ対策」という 4 つのテーマで講演しました。ライブ中継先も含めて、全 4 回で延べ 231 名にご参加いただきました。

4. 風紋祭での連携各町からの食材提供

【10 月 8 日（土）～10 日（月）：鳥取大学鳥取キャンパス】

大山町、琴浦町、鳥取県水産試験場は、料理サークル等の学生が風紋祭に出展する模擬店に食材提供を行いました。学生は販売とともに

町や県特産品のＰＲを行いました。提供された食材で作られたハタハタの唐揚げやプリンなどは、来場者から非常に好評を得ていました。

5.鳥取県生活環境部との意見交換会【10 月 13 日（木）：鳥取大学共通教育棟第一会議室】

本会は、両者のより一層の連携強化を図ることを目的に毎年開催しています。県生活環境部からは、広田一恭部長をはじめ 14 名が、本学から田中久隆理事、法橋誠理事をはじめ 18 名が出席しました。

県生活環境部から「メタンハイドレート研究の今後の展開」、「温室効果ガス削減に向けた県民運動」など、本学からは「日野川流域における水質・生態系調査」などが議題として出され、活発な意見交換が行われました。

6.廃棄物・資源循環研究会平成 28 年度公開シンポジウム

【10 月 14 日（金）：鳥取大学広報センタースペースＣほか】

とっとりネットワークシステム（TNS）登録研究会の「廃棄物・資源循環研究会」と本学の主催による「資源の循環利用を考えるシンポジウム」が開催され、70 名が参加されました。

「持続可能な社会をつくるイノベーション」をテーマに、工学研究科の伊藤敏幸教授が「イオン液体で変わる次世代不揮発性メモリのはなし」、伊福伸介准教授が「カニ殻から抽出した新素材“マリンナノファイバー”のヘルスケア効果」、海老沼孝郎教授が「鳥取県沖でも発見された”燃える氷”メタンハイドレートの紹介」を講演しました。また、ショートプレゼンとポスター発表では、講演者のほか県内研究者が各々の研究テーマを紹介し、交流を図りました。

7.生業・生活統合型多世代共創コミュニティモデルの開発」キックオフ・フォーラム

【10 月 25 日（火）：鳥取大学広報センタースペース C】

地域学部 家中茂教授を研究代表者とする研究プロジェクトが国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）の「戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）平成 28 年度新規プロジェクト」に採択されました。そこで、本学と連携協定を締結し、本プロジェクトの研究フィールドとなっている智頭町と、共同申請者である「NPO 法人自伐型林業推進協会」、「NPO 法人ドットファイブトーキョー」との共催による「キックオフ・フォーラム」を開催し、70 名を超える参加がありました。家中教授によるプロジェクト紹介の後、「自伐型林業と福祉」をテーマに自伐型林業推進協会の中嶋代表理事、地域学部の竹川准教授、ドットファイブトーキョーの原口代表理事がそれぞれ講演を行いました。また、智頭町の「智頭ノ森ノ学ビ舎」、「森のようちえん」、奈良県の「陽楽の森プロジェクト」がそれぞれの活動を紹介し、本プロジェクトのスタートを切りました。

8.第 17 回あいサポート企業・団体認定証授与式【10 月 28 日（金）：鳥取県知事公邸】

障がいのある方への配慮の実践の一助とするため、教職員及び学生を対象に本学が実施した、あいサポーター研修等が認められ、「あいサポート運動」を積極的に推進する企業・団体である「あいサポート企業・団体」として認定されました。10 月 28 日には「第 17 回あいサポート企業認定証授与式」が行われ、林昭男副知事から田中英行学生部長に認定証が授

与されました。田中英行学生部長は、バリアフリー体験講座の開催など本学の取組と今後の抱負を述べ、これに対し、林副知事は学生のあいサポーター数増加に期待されました。

9.ものづくり指導者養成講座（鳥取、米子）

【(鳥取）11 月 5 日（土）～：鳥取市文化センターほか、(米子）11 月 20 日（日）～：米子市児童文化センター】

鳥取大学をはじめ自治体や地元企業等が連携して運営するものづくり道場では、地域で子ども達にものづくりや科学・技術を教える指導者になっていただくための「指導者養成講座」を、県内 3 地区(東・中・西部)にて毎年開催しています。今年度の講座は、145 名(東部 91 名、中部 19 名、西部 35 名)が受講されました。受講者は今後、実際に子ども達に教える実地演習を経て、「指導者養成講座修了生」になります。指導者養成講座の修了生は、派遣講座・各イベントへのブース出展など、各地域で色々な「ものづくり教室」にて活躍しています。

10.ナレッジキャピタル超学校「鳥取発！乾燥地研究へのご招待」開講

【11 月 7 日（月）～：グランフロント大阪北館「カフェラボ」】

産学・地域連携推進機構は、乾燥地研究センターと共同で大阪ナレッジキャピタルが開講する、市民向け講座「超学校」に参加しました。「鳥取発！乾燥地研究へのご招待」と題して乾燥地研究センターから 4 名を派遣し、11 月から 12 月にかけて隔週で 4 講座を開講しました。「超学校」への本学の参加は初めてであり、中国地域の大学が参加するのもこれが初めてになりました。4 回の講座を通じて延べ約 90 名の受講者があり、熱心に聴講いただきました。産学・地域連携推進機構では、今後も県内外の研究情報の展開・広報を実施してまいります。

11.鳥取大学地域課題研究成果報告会・とっとりふるさと元気塾活動報告会「ふるさとを元気に!!～大学と連携した地域資源活用による中山間地域の活性化～」

【11 月 21 日（月）：とりぎん文化会館第 1 会議室】

鳥取市との共催による「ふるさとを元気に！！～大学と連携した地域資源活用による中山間地域の活性化～」と題した報告会を開催し、地域づくりに取り組む団体の方など、124 名にご来場いただきました。

本学では、人口減少・高齢化が進む過疎地域や中山間地域を対象に、持続可能な地域づくりのための教育研究活動を進めており、そのなかでも「地域課題研究」では地域の課題解決を目指して多くの研究者が自治体との連携により事業に取り組んでいます。今回の報告会では、実際に鳥取市内の中山間地域で活動を行う「とっとりふるさと元気塾（塾長：深澤義彦鳥取市長)」の塾生から活動事例・課題について紹介いただくとともに、それに対する大学の活用・連携方策について提案を行い、相互連携のきっかけを作りました。

12.平成 28 年食品開発と健康に関する研究会

【11 月 25 日（金）：鳥取大学産学・地域連携推進機構研修室】

とっとりネットワークシステム（TNS）登録研究会の「食品開発と健康に関する研究会」は、産学金官の関係者が情報交換を行うことを目的として、「発酵食品」をテーマに第 14 回目の研究会を開催し

ました。

鳥取県市場開拓局販路拡大・輸出促進課　山崎利幸課長補佐が「鳥取県産品の海外販路開拓支援について」、鳥取県産業技術センター電子・有機素材研究所　西尾昭副所長兼発酵生産科長が「発酵生産科の取り組み」、農研機構食品研究部門食品生物機能開発研究領域食品醸造微生物ユニット　楠本憲一ユニット長が「麹菌のゲノム情報を活用した醸造技術の開発」について講演し、34名が参加されました。

13. とり²×めいじさんかくカレッジ～女と男の生き方講座～

【11 月 26 日（土）：：鳥取県立図書館大研修室、12 月 18 日（日）：米子市立図書館多目的研修室】

「男女がともに担う社会づくり」をテーマに明治大学・鳥取大学・鳥取県の連携講座（全 3 回）を実施しました。第 1 回は明治大学 加藤久和教授が「求められる女性活躍とその課題」について講演され、第 2 回は武蔵大学 田中俊之助教が「『男性の生きづらさ』から考える性別にとらわれない多様な生き方」について講演されました。多くの方に聴講いただき、幅広い視点・切り口から、男女共同参画について考える機会になりました。第 3 回は 1 月に鳥取大学で開催します。

14. 平成 28 年度鳥取大学振興協力会第 2 回役員会・会員交流会

【11 月 30 日（水）：ホテルモナーク鳥取鳳翔の間】

鳥取大学振興協力会では、「平成28年度第2回役員会及び会員交流会」を開催しました。役員会では、『県内企業への卒業生定着促進に向けた取り組み』をテーマとして「地域協働型インターンシップ」「学生参加型の産官学連携共同研究」「県内企業見学COC+シャトル便」といった学生と産業界を結びつけるための活動について報告を行い、意見交換を行いました。続く交流会では、会員企業である㈱ウィードメディカルの門脇課長と工学研究科の竹森准教授が、「人混みを認知して自動的に移動する高知能車椅子の研究開発に関して」講演しました。懇親会では、学生がプレゼン発表を行い、64名の参加者は会員同士や研究者・学生との交流を深めました。

15. サイエンスアカデミー「キリスト教と芸術・科学」開講

【12 月 10 日（土）～：鳥取県立図書館大研修室ほか】

会場を鳥取県立図書館に戻した 12 月の「サイエンス・アカデミー」は、クリスマスシーズンにちなんで「キリスト教と芸術・科学」を主題とした、全 2 回のシリーズです。12 月 10 日の第 1 回目では、地域学部附属芸術文化センターの筒井准教授が、「西洋絵画の楽しみ方～『受胎告知』を中心に～」と題して、西洋絵画の読み解き方について、12 月 24 日の第 2 回目では、医学部の安藤准教授が「子どもは『授かる』もの？『作る』もの？～いのちの始まりをめぐる生殖医療技術と宗教～」と題して、生殖医療技術の進歩と宗教・文化との関係について解説しました。ライブ中継先を含め、計 185 名にご参加いただき、盛況でした。

16.鳥取大学教育研究・事業成果報告会 in 米子

【12 月 14 日（水）：米子コンベンションセンター】

本学では、地域課題やニーズに対し、自治体等と連携して解決を目指す「地域貢献支援事業」と「COC・地域志向教育研究事業」に取り組んでおり、平成27年度に西部地区をフィールドとして実施した事業の成果報告会を開催しました。

このうち大山町と連携した工学研究科 黒岩教授は、「学生派遣による地域のまちづくりと自主防災の人材育成プロジェクト」について報告を行い、自治体職員や地域住民の方など、約60名が発表に聞き入っていました。

17.とっとりテクノロジーイノベーションミーティング 2016

【12 月 14 日（水）：とりぎん文化会館】

鳥取県内の大学、短期大学、工業高等専門学校、公設試験研究機関、企業等の研究者・技術者が一堂に会した“技術ミーティング”により、将来にわたって強固な産学官連携を構築することを目的として「とっとりテクノロジーイノベーションミーティング 2016」が開催されました。

株式会社モフィリア 天貝佐登史代表取締役社長が「先端技術ベンチャーのやりがいとチャレンジ」、株式会社パソナテック、取締役株式会社エクサインテリジェンス　粟生万琴取締役が「産学連携による新しい人材育成について」、Girls in Tech Japan 加藤愛子代表が「Girls in Tech Japan で技術系女性を元気に！」について講演しました。ポスタープレゼンテーションでは 60 件の発表があり、本学からは 18 件出展しました。パネルディスカッションでは、天貝社長、鳥取県産業技術センター機械素材研究所 草野浩幸所長、工学研究科 三浦政司助教、米子工業高等専門学校 河野清尊教授が登壇し、「産官学連携による中小企業の技術開発・地方からの技術発信！」について議論しました。

18.平成 28 年度第 3 回日野川源流の会幹事会【12 月 14 日（水）：江府町防災・情報センター】

第 3 回幹事会が開催されました。平成 28 年度（平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の事業実績について、各イベント、日野川流域憲章記念事業（日野川フォトコンテスト写真展の実施など）、補助事業（3 団体への補助金支給）、15 周年記念事業（日吉津村での記念植樹実施など）の報告があり、実績内容と来年度への課題を確認しました。さらに平成 29 年事業計画案と総会の内容について活動基本方針を確認し、主に他団体とのコラボレーション、イベント実施時期、活動の広報、活動助成金などについて集中した議論を行いました。

19.第 2 回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議

【12 月 22 日（木）：鳥取大学広報センタースペース C、医学部アレスコ棟第 1 会議室】

今年度第 2 回目の「鳥取大学・日南町連携事業ワーキンググループ会議」が開催されました。農学部日置教授が座長を勤め、大学教員や町職員のほか、関係者ら 24 名が出席しました。

WG 会議では各連携事業の中間報告と来年度事業の提案が行われました。本学から「学生を自治体へ送り込む為のセミナー」について提案があり、日南町から「安全な観光とヒメボタルの保全の両立」について研究依頼がありました。第 3 回目の WG 会議は連携事業報告会と併せ、3 月上旬に行われる予定です。

知的財産管理運用に関する事業報告

1. 第 43 回国際福祉機器展【10 月 12 日（水）～14 日（金）：東京ビックサイト】

医学部解剖学講座 稲賀すみれ講師が発明し、産学官金連携によって商品化された介護用衣料「寝ごころちゃん」について、東京ビックサイトで開催された「国際福祉機器展」に出展しました（鳥取県産業振興機構の展示ブース）。本製品には、境港市で栽培・収穫された伯州綿（浜綿）が使用されており、地域ブランド商品としても期待されています。

会期中ブースに来場された約 100 名を超える方に対して、個別に製品の説明を行いました。

2. さんさんコンソ発【材料・装置】新技術発表会

【11 月 1 日（火）：JST 東京本部別館 1 階ホール】

本学と岡山大学が事務局を担当する中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）と科学技術振興機構（JST）が主催して、「新技術説明会」を開催いたしました。今年度は、「ライフサイエンス　新技術説明会」、「材料・装置　新技術説明会」に分けて発表を行いました。本学から、工学研究科の西田信一郎教授が参加し、「海底採掘ロボット用高精度位置決定システム」をテーマに、口頭発表及びポスター展示を行いました。口頭発表では、37 名が聴講し、発表後 6 名と名刺交換を行い、研究内容について意見交換を行いました。

3. 第 58 回鳥取県発明くふう展表彰式

【11 月 13 日（日）：鳥取市江府町コミュニティーセンター】

例年、本学の学生も出展している一般社団法人鳥取県発明協会主催の「鳥取県発明くふう展」の表彰式が行われました。本学学生の発明に関しては、一般の部において、「日本弁理士会会長奨励賞」と「鳥取県発明協会会長賞」を受賞されました。

4. キャンパスイノベーションセンター東京新技術説明会

【12 月 1 日（木）：キャンパスイノベーションセンター東京】

本学の東京オフィスが入所しているキャンパスイノベーションセンター東京において、同じく本センターに事務所を有する大学と共同で新技術説明会を開催いたしました。今年度は【情報・機械・材料】分野の 10 件と【医療・創薬・バイオ】分野の 9 件の発表がありました。本学からは、農学部の上中弘典准教授が、未公開特許である「ラン科植物の発芽と共生を促進する技術」について発表し、当該口頭発表では 20 名の聴講がありました。また発表後も 2 社と名刺交換があり、研究内容等について様々な意見交換が行われました。

発行日：平成 29 年 1 月 25 日＜第 47 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@ml.adm.tottori-u.ac.jp